

歯内治療における狭窄した根管へのアプローチ



室町 幸一郎

保存科 歯内診療部門 教授

根尖性歯周炎を有する歯において根尖側1/3までを穿通可能にすることは、根管治療における最も重要な成功因子である(Gulabivala and Ng, 2023)。しかしながら臨床ではしばしば狭窄した根管に遭遇し、それらは歯内治療の妨げとなる。American Association of Endodontics (AAE、米国歯内療法学会)のEndodontic Case Difficulty Assessment Form and Guidelines やAAE Endo Case Appにおいて、「根管の走行が不明瞭」や「根管および髓腔が確認できない」症例はHigh Difficultyとして分類される。狭窄根管は治療の難易度が高いだけでなく、根管のトランスポーテーションや穿孔、器具破折など偶発症のリスクを高める要因にもなり得る。

本講演では狭窄した根管を有する歯内治療症例を提示するとともに、狭窄根管をマネジメントする際に必要な原則、知識、技術を整理し、明日からの臨床に役立てることを目的として皆さまと議論したい。

【略歴】

2007年3月 日本大学松戸歯学部 歯学科 卒業

2012年3月 日本大学大学院 松戸歯学研究科(専攻:歯内療法学)修了、博士(歯学)取得

2012年4月 日本大学松戸歯学部 歯内療法学講座 助手(専任扱)

2014年4月 神奈川歯科大学 歯髄生物学講座 助教

2020年4月 神奈川歯科大学 口腔統合医療学講座 歯髄生物学分野 講師

2024年4月 神奈川歯科大学 高度先進歯内療法学分野 講師、

附属横浜クリニック 成人歯科歯内療法部門 診療科准教授(部門長)

2025年4月 神奈川歯科大学 歯科保存学講座 歯内療法学分野 教授

* 主な所属学会等

一般社団法人 日本歯内療法学会 専門医・指導医

特定非営利活動法人 日本歯科保存学会 理事、認定医

一般社団法人 日本顕微鏡歯科学会 副事務局長、常任理事、認定医

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会